

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 一般国道20号 <small>しもすわおかや</small> 下諏訪岡谷バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点 自：長野県諏訪郡下諏訪町東町 至：長野県岡谷市今井				延長 5.4km
事業概要 一般国道20号は、東京都中央区から長野県塩尻市に至る延長約225kmの幹線道路である。 下諏訪岡谷バイパスは、現道である国道20号の交通混雑の緩和と交通安全の確保を目的とした、長野県諏訪郡下諏訪町東町から岡谷市今井までの延長5.4km、4車線のバイパス事業である。				
H4年度事業化		H2年度都市計画決定		H6年度用地着手
H10年度工事着手				
全体事業費	約464億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)	約73%	供用済延長 0.8km(完成) 2.9km(暫定)
計画交通量	6,100~18,500台/日			
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.3	総費用 (残事業)/事業全体 92/725億円	総便益 (残事業)/事業全体 464/925億円
	(残事業)	5.1	事業費：74/698億円 維持管理費：17/27億円	走行時間短縮便益：426/810億円 走行経費減少便益：36/110億円 交通事故減少便益：2.1/5.5億円
基準年：令和3年				
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.2~1.3(交通量±10%) 事業費：B/C=1.3~1.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.4(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=5.0~6.3(交通量±10%) 事業費：B/C=4.6~5.4(事業費±10%) 事業期間：B/C=4.6~5.2(事業期間±20%)				
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・下諏訪岡谷バイパスと並行する国道20号（現道）では、長地交番前交差点周辺（暫定2車線供用区間への接続）や大社通り交差点（国道142号と接続）を中心に交通混雑が発生。 ・下諏訪岡谷バイパスの整備により、交通の転換が図られ、国道20号（現道）の渋滞緩和が見込まれる。 ②交通安全の確保 ・下諏訪岡谷バイパスと並行する国道20号（現道）では、渋滞や沿道利用に起因する事故が多発している。 ・下諏訪岡谷バイパスの整備により、現道の交通量が転換し、交通事故の減少に期待。				
関係する地方公共団体等の意見 長野県知事の意見： 一般国道20号は、本県及び国土の骨格となる重要な道路であり、「下諏訪岡谷バイパス」は、地域における交通の安全・円滑化、高規格幹線道路へのアクセス性向上、観光の活性化に必要な不可欠な事業です。 ついては、事業を継続し、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要望します。 また、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減に努められるようお願いいたします。				
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を了承する。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・下諏訪岡谷バイパス暫定2車線（2.9km）、国道142号バイパス及び県道下諏訪辰野線の3路線を同時に平成16年3月27日に供用。 ・長地山の手土地区画整理事業が平成14年度事業完了。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成2年度都市計画決定、平成4年度事業化、平成6年度より用地取得着手、平成10年度より工事着手。 ・用地取得率は約91%（令和3年3月末時点）。 ・平成16年3月に暫定2車線（2.9km）が開通済み。 ・平成29年度に岡谷市今井～岡谷インター西區間（0.8km）を完成2車線で開通済。 ・国道142号から国道142号バイパス間（1.7km）の道路設計、用地取得、改良工事を実施。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き、早期完成に向け事業促進を図る。				
施設の構造や工法の変更等 技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら引き続き事業を推進していく。				

